

統語的計算モデルによる 脳活動データのモデリング

杉本 侑嗣 (大阪大学)

本研究では、脳活動データの生理的指標を用いて計算モデルの評価をすることを目的とする。従来の神経言語学では、非常に制約された言語刺激を使うことで、文処理に関する脳部位を特定することが行われてきた。一方近年では、自然な刺激文を使用した実験を行い、自然言語処理で提案されている計算モデルなどから算出される指標を用いて、脳活動データへの予測力の検証が行われてきている。本発表では、日本語の自然な刺激文を使用した実験で得られた脳データを用い、統語的計算モデルがどのくらい脳活動を予測するかに関して検討する。結果として、単語の列のみを扱うモデルに比べ、統語的な階層構造を考慮する計算モデルが説明する脳活動領域を確認でき、人間の逐次的な文処理において、統語的な情報の必要性を支持することを示唆する結果が得られた。